

戦略グループ会議 報告書

| | |
|--|--|
| <p><戦略グループ会議の名称> 北総地域の生物多様性 ・生物多様性ちば県戦略づくりにむけて</p> | <p><参加人数> 56 人</p> |
| <p><主催グループ名> 北総里山クラブ</p> | <p><代表者名> 長谷川 雅美</p> |
| <p><実行委員名> NPO法人ラーバン千葉ネットワーク・印西サシバ調査グループ・NPOせっけんの街印西・NPO法人せっけんの街白井・印西・ゴミと暮らしを考える会・白井環境ネットワークの会・白井の自然を考える会・NPO法人しろい環境塾・北総生きもの研究会・東邦大学理学部</p> | <p><共催(協力)団体名></p> |
| <p><開催日時> 2007年7月20日 19:00~21:00</p> | <p><開催場所> 保健福祉センター(白井市)</p> |
| <p><会議で話し合われたテーマの概要> “里山に囲まれたまちづくり”をめざして、わたしたちの提案</p> | |
| <p>各グループ会議からの提案</p> | |

1. 各グループ会議にとって、生物多様性の保全・再生のための課題は何ですか。

地域性の重視：市民団体は足元の自然と地域社会を詳細に把握し、そこから提案を導きます。地域の自然、生物、文化、社会のまとまりを認識し、その地域の生物多様性をどう保全すべきかを考えることが県全域の生物多様性保全のボトムアップに寄与します。そのような理由により、我々のグループは、千葉県北部の北総台地の中でも、白井、印西、印旛、本埜という4つの市町村にまたがる地域（千葉ニュータウンとそれを取り囲む里山）の生物多様性保全を扱います。

北総地域の特徴的課題：

1) ニュータウン計画の破綻と見直しの欠如が無計画な土地の放出をもたらす

都市と田園の共生を謳ったまちづくりは、都市計画だけでは実現しません。都市住民の食料供給や治水、気候の安定化などのエコシステムサービスを支える農村の農村計画が欠かせません。さらに、計画的都市実現のために買収されながらもさまざまな理由により都市開発から除外された土地に残された、この地域本来の生物相を保全し、千葉県はおろか日本全国でも貴重な低地の草原性動植物の保護に寄与することが北総地域の生物多様性保全にとって最大の課題です。企業庁用地が大半を占める印西市武西、白井市谷田地区はその北総の原風景を残し、貴重な生物を育む象徴的地区であり、この地区の自然環境保全を最大の課題とみています。

2) 農業経営の不安定さは、後継者不足と市場との乖離による、それが乱開発に拍車をかける

都市に隣接し環境の悪化や経済的に疲弊した農村では、常に小規模の宅地開発が乱立し、無秩序な開発圧にさらされています。そうした開発で農地や樹林地が消失させないために、都市住民が周辺農家の農地保全を支援し、農家との経済的関係を強化することが課題です。都市近郊農業の生き残りにとっては、農業生産を保障するためにさまざまな化学物質を用いた病害虫制御から、総合的生物多様性管理 (Integlated biodiversity management) へと転換していかなければなりません。

3) モラル無きニュータウン開発はゴースタウンを生み出す。

ニュータウンの成功は、都市開発と周辺地域の農村計画を共益させることでこそ実現します。企業庁が計画的開発から撤退しようとしている今、ニュータウンと在地農家の新旧住民が生物多様性保全を前提とするまちづくりを主体的に提案し、実現を働きかける運動の中で自然環境保全というモラルを、自然を守り育む地域文化に取り戻していきます。

2. 課題を解決するために、何をすべきですか

まずは、千葉県や日本の生物多様性保全にとって、北総地域の価値が高いことを科学的に示す。その上で、市民の合意、理解を求めながら、次のことを進める。

① 活動拠点づくり・・・広域生態系保護区の指定と
北総地域の活動拠点を設置
——具体的モデル地区として、武西・谷田地区——

② サイクリングロード と パブリックフットパス(公的遊歩道)の整備

③ 里山をつなぐ水系ネットワークの整備

④ 農業支援と地域農業経済の活性化

■子供たちのために、身近な自然とふれあう拠点を確保。学校から 10 分程度でいける場所に作る。

■活動の会があることが最重要で、その会の連携をとっていくこと。

■人、学習、お金、への取り組み

・人・・・活動に参加する人集めに苦勞するので、小学生への環境教育だけではなく、高校生・大学生へのダイレクトな実践が必要。

・学習・・・各市各村での同レベルの学習・調査を身につける活動

・お金・・・助成金は全経費の半分までで とても足りない。100%の助

戦略グループ会議 報告書

成にしてほしい。

- 自然があることの価値を共有する。特に公共福祉という面からも意義深いことを訴え、里山保全と社会的弱者への支援を結びつける。
- 地主のかたへ配慮した活動が重要。
- 北総里山クラブは、連合体の為、各団体の提案を別途添付。

3. 誰が、どのように進めますか。(県民、事業者、行政等の役割)

生物多様性の保全を核としたまちづくりをこの地域に実現するため、私たち市民団体は自発的に連携を深め、課題の共有と提案のための協働を重ねてきました。

この体制は未完成ですが、千葉ニュータウンに芽生えたこの動きを千葉県はサポートし、生物多様性保全の地域戦略を実効あるものとするために都市計画と農村計画を総合化することを提案します。

- ・北総里山クラブ・・・それぞれの団体が活動する中で 世界、日本、千葉県の中での北総地域の特性を見極め、“里山に囲まれたまちづくり”:未来のまちの姿を話し合い、勉強、情報交換し、共有していく。
- ・県・・・良好な里山が残る北総地域を《生物多様性保全》のモデルケース地域として指定し、《里山に囲まれたまちづくり》の実現に向け、北総里山クラブや各関係団体と連携をとりながら 里山環境を未来に引き継いでいくバックアップをしていく。
 - ・行政機関に環境保全に力量(ノウハウ)のある人を参画させ、問題解決にあたる(官民一体)
 - ・生態系に配慮したニュータウン計画や河川計画を住民とともに再構築
 - ・活動資金の助成(すべてボランティアという現状からの脱却)
- ・研究者・・・里山を保全する北総地域の市民団体と協働し、人材育成、情報の提供などに積極的に務める。
- ・住民・・・就農支援、有機農業の支援、里山保全活動に積極的に参加する。

戦略グループ会議 報告書

| | |
|---|------------------------------------|
| <p><戦略グループ会議の名称> 北総里山クラブミーティング</p> | <p><参加人数> 13 人</p> |
| <p><主催グループ名> 北総里山クラブ</p> | <p><代表者名> 長谷川雅美</p> |
| <p><実行委員名>NPO 法人ラーバン千葉ネットワーク・印西サシバ調査グループ・NPOせっけんの街印西地区、白井地区・印西ゴミと暮らしを考える会・小林住みよい街づくりの会・しろい環境ネットワークの会・白井の自然を考える会・NPO 法人しろい環境塾・北総生きもの研究会・文化アイデンティティ研究所・猫の綿畑・いには野アカガエルの里を守る会</p> | <p><共催（協力）団体名></p> |
| <p><開催日時> 2007. 8. 28.</p> | <p><開催場所> 白井保健福祉センター</p> |
| <p><会議で話し合われたテーマの概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性ちば県戦略 県民会議の経過報告と 提案のまとめ ・『守りたい千葉の里山・森づくり』への情報提供 | |
| <p>各グループ会議からの提案</p> | |

県民会議への提案書は、3 度目になります。

生態系保護最重要地区の保全の要望、
生物多様性保全実現に向け、北総里山クラブでは
タウンミーティングを 2 回、話し合いを 25 回重ねてきました。

最新のミーティングを新たに報告書としてまとめ、
県民会議への提案いたします。

どうぞよろしくお願いたします。

戦略グループ会議 報告書

1. 各グループ会議にとって、生物多様性の保全・再生のための課題は何ですか。

○生物多様性保全実現に向け行政の力を借りたいが、環境、都市計画、農政、下水道、などの多くの分野にまたがるため、一括して対応する部署がない。そのため、現状では市のどの担当者も自分の課から率先して解決に向けて取り組もうという意思がみられない。

○生物多様性の保全は、ハビタット（生物の生息空間）を確保することが基礎になる。しかし、生物の生息地に関する情報と都市、農村の土地利用計画とのすり合わせができていないため、まちづくりに生物多様性の保全を組み込む基盤整備がない。

○千葉県の中でも貴重な動植物の潜在地域といわれている北総地域で環境調査が行われていないところが多い。にもかかわらず、環境アセスメントを行わなくてもよい程度の中小規模の開発計画が多発している。そのため、生物多様性の把握がなされないまま、消失の危機にさらされている。

○生物多様性保全を考え最重要保全地域を谷田・武西地区としたが、最大の土地所有者は千葉県企業庁である。県企業庁は平成25年までに土地を処分する予定になっている。

○昨年、谷田・武西の保全を企業庁と県の堂本知事に提出し、一時的に土地の処分が凍結されている。「民意を得られれば、保全する」といわれたが、民意を得る方法がむづかしい。

しかし、解決しないと土地の売却に向かってしまう。

○千葉ニュータウン計画の破綻の責任は、かつてこの計画を立案・実行を担った一部の人間にあるのに、計画破綻のしわ寄せは、この地域に住む生きものと政策の転換の繰り返しにより騙された土地所有者（農業従事者）に偏って課せられている。

○多くの人に生物多様性保全の意義と重要性を理解して欲しいが、市民団体による特定地域の保護活動の多くは、急進的な市民運動と誤解され、輪が広がらない。本来ならば、まちづくりの提案へと広がりを持たせ、生物多様性保全の恩恵を受けるはずの多くの市民とともに活動したいが、具体的方法に苦慮している。

○生物多様性保全実現に多くの法律の理解が欠かせないが、多岐にわたり限界を超える。

○生物多様性保全実現にむけてボランティア団体で活動し続けているが、お金と時間が無さ過ぎる。

2. 課題を解決するために、何をすべきですか。

■保全再生していくための土地利用

1. 生物多様性保全実現のための土地の確保
：谷田・武西を地域生態系保護区として県立公園化を目指す
(生態系保護区 Bio- Reserve)と自然史博物館 (Natural History Museum) の設置
2. ビオトープの指定と保護管理

■生物多様性を劣化させる原因の排除

3. 谷津の水源を保全するため、水源となる谷頭の開発を禁止する。
4. あらゆる規模の開発にも環境アセスメントを適用する。

■生物多様性を保全・再生していくためのしくみづくり

5. 土地所有者の意向を聞き、ともに保全・再生する道を探る。
6. 都市近郊の土地開発において、開発で消失する樹林地が担っていた多面的機能(気候の緩和、二酸化炭素吸収、生物の生息地)を補完する措置(代替地の保全、植林、移植など)を全ての開発に義務付ける。
7. 生物多様性を市民に広く理解してもらおう啓蒙活動。
8. 地域に根ざす市民環境調査員の養成
9. 水循環、生物多様性保全の基礎情報と土地利用計画を市町村境界に囚われずにすり合わせ、科学的な保全計画を策定する専門部署、またはセンター、市民活動拠点を設置。行政内での部署の1本化

■持続可能な利活用

3. 誰が、どのように進めますか。(県民、事業者、行政等の役割)

生物多様性が多岐にわたるため、実現に向けてどの項目も 県民・行政・事業者・研究者が 話し合いをしながら進めるのがよい。生物多様性は公共性のある課題で、地域に根ざしているなので、ある程度まとまっ

戦略グループ会議 報告書

た地域（ここでは北総地域）の行政・研究者・市民が じぶんたちのまちづくりを考える中で進めるのが妥当と思う。

4. 自由記述

イデオロギーや特定集団への利益誘導でなく、地域社会の健康、福祉、環境保全などを一体化し、リーダーシップを発揮して施策を具現する首長がすべてのレベルで求められます。

そういう首長が必要だということを、今後の市民活動を通じて訴え、下地づくりをすべきだと考えます。

※1枚で収まらない場合は、2枚になってもかまいません。

市民が参加する「北総地域の里山～とくに印旛村・本埜村」自然環境調査の必要性

(主旨)

「ちばの里山・森づくり」を推進するためには、里山の基本資料が必要です。しかし小さい自治体である印旛村や本埜村では里山の基本調査が十分に行われていない現状があります。そこで、里山の再アセスメントのために、市民参加を前提とした各自治体による自然環境調査の実施を要請します。また、長期的な自然環境保全のために、自然観察に関する市民調査員養成講座の実施を併せて要請します。

(1) 印旛村での里山保全活動の試み…いには野アカガエルの里を守る会の活動

①松虫西台の谷津田の保全再生活動

千葉ニュータウンいには野地区に隣接する印旛村松虫西台の谷津田は、千葉県で絶滅危惧種の最重要保護動物に位置づけられているニホンアカガエルが生息する豊かな生物多様性をもつ北総地域の里山の一つです。平成18年度に、この谷津田の耕作の方が都合により耕作できなくなりました。そこで、村役場をはじめ関係各部局や土地所有者の方のご理解のもと、また稲作指導や作業支援などについては社会福祉法人印旛福祉会いんば学舎の方々のご協力のもと、平成19年度から谷津田里山自然の保全を目的とした市民有志(いには野アカガエルの里を守る会)による無農薬での稲作を中心とした活動が始まりました。今年度からの5カ年計画で、ホタルやメダカの生息する小川の再生や子どもたちを主体とした自然観察会の実施などの活動を行っていく予定です。しかし現在、都市再生機構による谷津田上流部と西側斜面林上台地の開発が行われています。今後も豊かな生物多様性を維持するためには保全活動が重要であると考えられます。

②里山の生物調査

印旛村には、松虫西台の谷津田の他にも豊かな生物多様性をもつ谷津田里山が広く存在します。一例として印旛村と本埜村の村境の谷津田では、春にはアカガエルが合唱し夏にはホタルが飛びかいます。今年度から、里山の基礎的資料を作成するための生物調査を始めました。

(2) 北総地域～とくに印旛村や本埜村～での自然環境調査の必要性

豊かな里山を有する印旛村や本埜村でも千葉ニュータウン開発をはじめとする都市化の傾向は進んでいます。里山を保全再生する持続可能な地域づくりのためには、里山の自然に関する基礎的資料が必要です。しかし印旛村や本埜村においては、その基礎的資料に乏しいのが現状であると思われます。

周辺の自治体においては、市民と自治体が協力して自然環境調査に取り組んでいる事例があります。例えば八千代市においては、以前からいくつかの市民グループが身近な環境調査や生物調査に取り組んでおり、自然環境の悪化と環境保全の重要性を指摘していました。そこで八千代市も自然環境の重要性を認識し、平成11年度から13年度まで「水辺の自然環境調査」が実施され、専門調査員による各分野の調査に加え、市民調査員による身近な自然調査も実施されました。(八千代市「水辺の自然環境調査」報告書2002年八千代市)

印旛村や本埜村においても自然環境に対する市民の意識も変化してきており、環境保全についての関心も高まってきています。そこで市民の協力の下、各自治体による自然環境調査を実施して頂きたいと考えます。

(3) 市民の協力体制づくり…市民自然観察員養成講座の必要性

白井市では東邦大学理学部の協力の下、平成16年度から17年度にかけて、市民調査員の養成講座が開かれました。その結果、市民が自らの生活基盤となる地域の自然環境に関心をもち、市民が主体となって自治体と共に地域の自然環境の保全に取り組んでいます。

北総地域全体で「ちばの里山・森づくり」を推進するために、小さい自治体である印旛村や本埜村でも市民が主体となって、自治体と協力して里山の基本調査を行う必要があると考えます。また長期的な自然環境保全のために、各自治体による自然観察に関する市民調査員養成講座を実施して頂きたいと考えます。

(文責：いには野アカガエルの里を守る会、高野義教)

北総地域の生物多様性保全にむけた提案

北総里山クラブ

2007. 8.31.

NPO 法人ラーバン千葉ネットワーク・印西サシバ調査グループ・NPOせっけんの街印西地区、白井地区・印西ゴミと暮らしを考える会・小林住みよい街づくりの会・しろい環境ネットワークの会・白井の自然を考える会・NPO 法人しろい環境塾・北総生きもの研究会・文化アイデンティティー研究所・猫の綿畑・いには野アカガエルの里を守る会

昨 2007 年 5 月 19 日に印西市と白井市で活動する 7 つの市民団体は、印西市武西、白井市谷田の企業庁用地を自然環境保全のために活用されることを知事と企業庁長にあて要望いたしました。その後、この団体は北総里山クラブと名乗り、谷田武西地区の自然環境保全を実現することを核に北総地域全体を里山に囲まれたまちとするための検討と活動を重ねてきました。そして、2007 年 12 月 10 日と 7 月 20 日には、里山に囲まれたまちの実現をめざし、地域の生物多様性保全戦略を考えるタウンミーティングを開催し、生物多様性保全ちば県戦略の県民会議に報告いたしました。

2 つのタウンミーティングに参加された印西市、白井市、本埜村、印旛村在住の市民の皆様からいただいた意見・希望を土台とし、新たに参加した市民団体による検討を重ね、ここに具体的な保全策を提案させていただきます。

- 1) **千葉ニュータウン開発の目的で取得された県有地を生物多様性保全の拠点として活用してほしい。中でもニュータウン開発の除外地を多く含む谷田・武西地区を自然環境保全地区として確保することを提案する**（昨年提出した保全の要望書を添付する）。
- 2) 都市再生機構撤退後の千葉ニュータウン地域の都市計画と農村計画を再度見直し、生物多様性保全をベースに 防災問題、食料問題、地球温暖化防止を地域から実現するまちづくりを実現するため、**印西市、白井市、印旛村、本埜村に散在する企業庁用地、他 重要地域の生物多様性を評価する基礎調査の実施を提案する**。（参考のため、すでに私たちが把握している地域について、重要地域の地図とリストを添付する）。

市民団体としての北総里山クラブは、上の提案を実現するために各市民団体や地域住民の自発的保全活動を連携する体制を、以下の活動を通じて整える。

- (ア) 優良な自然環境、(谷田・武西地区を含む)の保全を達成することを通して、北総地域を里山に囲まれた街として具現する
- (イ) 参加全団体の年間活動計画案作成
- (ウ) 北総里山クラブの活動地域マップ作成

朝早くから いつものように武西からスギ林に入りました。
人気の無い林の道にかがんでいる老人がいたので、声をかけました。でも、ピクリともしません。
何度も声をかけました。
気配を察したようにやっと顔をあげ、私を見て驚いて、不審そうでした。

「鳥を見ているのです。」私は弁解しました。
「ここには、タカがいますよ。いつもここに来る時、いつもいる。
同じところ、企業庁の柵がしてあるところに、あそこに。
……昔は鳥はいっぱいいたのです。」
いきなり、企業庁という言葉が出て、ドキッとしてしまう。
この地域の里山がすべて 企業庁の所有する土地と
個人の所有とが複雑に入り混じっているため、虫食い状態の
開発がされていくのを知っていました。



「ここはいいところですね。時々、散歩させてもらっています。」
「植物と動物は 相関関係をもっているのですね。」
「……！！……」
スギにからまるツタを、鎌で取り払いながら、この人はそんなことを考えていたのだろうか……

「ここには、フクロウもいますね。」
「このツルは、木をダメにしてしまうから……。歳だけれど、毎日、10分でも20分でも時間があれば、こうして林の手入れをします。もうここの土地持ちの知り合いは、みんな死んでしまった。私だけが残っています。」
耳が遠いようで、私とその人の会話は、かみあわない。

それから その人は一方的に、でも静かに
延々とこの土地の歴史を話して聞かせてくれました。



「昭和40年代にニュータウンを造るから県がこの土地を
売ってくれとやってきた。私はまだ田んぼをやっていたし、
近くの畑では陸稲を植えていた。あの頃は農業基本法
なんてあって盛んだったから、農林大臣から「植えろ」という感じだった。
ニュータウン計画の基盤整備という話がもちあがって、部落の中で、賛成・反対があって、先祖
代々の土地だから売るわけにはいかない……代替地がほしい……なんていうことになり、県は、

隣町の神々廻・平塚を代替地として集め、田んぼを売ってくれと行ってきたりした。私はその時には、部落中での反対派だった。ここは、日本でも有数のクロマツの山だからと行って断った」

「このスギ林は、先にマツが植えてあって、15,6年経ってからから、スギを植えてある。二段連子というやり方、そうするとスギも松も共に育つのです。昭和49,50,51年、マツが全滅した。マツが次々とやられて手のつけようがなかった。船橋市の方はヘリコプターで薬剤を空中散布したが、この山は私が林を歩いて下から地面から薬をまいた。全部のマツの根元に薬をかけて回った。日本全国であつという間にマツがやられ、今の鳥インフルエンザのようなことが起こった。ひどかった。」

「県はここが、32万都市になるから土地を売ってくれと話してきた。印西市の田んぼは、1反80万、白井市の田んぼは1反120万で買っていた。その時はそんなことは知らなかったです。県は全然融通が利かない……。うそをついた。」

「『あっぱくつぱしんないよ。』

私のお母さんが、いつも私に教えた言葉です。『あっぱくつぱしんないよ』……。何がなんだか分らない時は、動いてはいけない。そういう意味です。だから田んぼを売るのは止めました。私はいつもお母さんの言うことを聞いていました。お母さんから怒られたことはありません。」

湧水から流れる水路にそって田んぼが作られていた昭和初期の頃の航空写真を資料館で見ることがありました。

湧水のあった場所は今、大学のキャンパス内で大きい池になっています。

その湧水のあった谷津の先端は、4斜線道路によって林も水路も分断されてしまいましたが、田んぼのあった場所は広いアシ原からハンノキ林へとつながり、生き物の宝庫になっています。



生きものの頂点に立つタカがいるというのは、彼らが生きるに足る食料が豊富にあることを物語っています。数年前から生きもの調査をしている私は、昆虫、野草、カエル、地衣類、鳥にいたるまでこのあたりに非常に良い自然状態が残っていることを感じていました。

黙って話を聞きながら時々自然に頭が下がってしまう私を見て、「あなたは県の人か？」と尋ねられました。

「県からまた最近、この土地を買ってくれないか、と言われて買っているから・・・」と。
「東京から40キロ圏内にまだ山がある。
おとし すぐその土地を県から買いました。
昔は、食住分離とかいいましたが、今は食住接近というのですか？
世の中、くるくるとかわりますね。」

「今、別の場所で田んぼを2町歩ほどやっていますが、税が自主申告になって必要経費が落とせるようになってよかったです。いい制度ですね。儲けがこんなに少なかったのか、というのがはっきり分るようになって驚きました。今、米作りをやっているのは大型機械をかりている組合農家だけです。安く米が入ってくるようになって このままでは、米つくり農家はだめになってしまいます。米の輸入に、アメリカは礼儀がないから。」

「写真を撮らせて頂けますか」
とオブティオを向けた先には、若い頃 戦争にも行き、
農家をつがないのならという理由で息子を大学に行かせ、
マツノザイセンチュウに侵されダメになっていくマツを
救おうと1本1本薬をかけて歩き、
色々騙され続けていると思いながらも
県に知恵をゆだねてきた87歳のIさんが立っていました。



デジカメで映ったご本人の映像を見せて差し上げました。
「フィルムのないカメラです」と説明しましたら、
「これがドコモDOCOMOというのですか？」
と 尋ねられました。
「ドコモは、株の1日の売買高が一番高いですね」

私は今、ここの保全を願っています。小さい生き物たちを守りたくて、彼らが住んでいる里山の環境が次の世代に引き継がれることを祈っているのです。
でも、本当に守っているのは、あなたのその手ですね。
でも、そして ここの自然の存在は あなたの意思次第なのですね。

—— 息子への 相続税のための資金繰り。
売ろうとしている先は、残土処理が明らかな業者。
仲介役は、自然保護を推進する研究者。

あなたにまつわる別の事実がここにあることを書くことが、自然を守ることに繋がるのだろうか。

.....

県民会議代表の方々へ

提言をあげるにあたり、非常なご苦勞をされていると思います。
ありがとうございます。

北総里山クラブの相馬と申します。

県民の生の声をあげるという目的で、ここまできましたが、
今回、県へ 幾度目かの保全資料を提出するにあたり
非常にありきたりのものしか出せないのが残念です。

生きものを愛する気持ちと
地主の方の立場や心が伝えられないことが
とても残念でなりません。

私は、北総生きもの研究会の1人として北総里山クラブに参加していますが、
1人のナチュラリストとして 谷田・武西の保全を願っています。

谷田・武西に100回は通っている人間として、このエッセイを
県への提出書類に 一緒に載せていただけたらと思い、北総里山クラブの同意を得て
添付いたします。

どうぞよろしくお願いいたします。

| No. | 場所 | 市町村 | | | | |
|-----|------------------------------|-----|---------------------------------|------|---------------------|---------------------|
| 1 | 谷田の谷津 | 白井市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 2 | 別所谷津 | 印西市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 3 | 結縁寺谷津 | 印西市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 4 | 大森谷津 | 印西市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 5 | 鹿黒谷津 | 印西市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 6 | 和泉谷津 | 印西市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 7 | 小倉・浦部谷津 | 印西市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 8 | 折立の森と湧水 | 白井市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 9 | 平塚・名内の谷津 | 白井市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 10 | 戸神谷津(キリスト教 大学、県立公園周 辺) | 印西市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 11 | 小名内 | 白井市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 12 | 武西の谷津 | 印西市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 13 | 文化センターの森 | 白井市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 14 | 野口のモミ林 | 白井市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 15 | 河原子橋南側 | 白井市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 16 | 大山口金山落し上流 | 白井市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 17 | 競馬学校周辺 | 白井市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |

| | | | | | | |
|----|-----------|---------|---------------------------------|------|---------------------|---------------------|
| 18 | 中木戸市民の森 | 白井市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 19 | 平等寺北の森 | 白井市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 20 | 神々廻・弁天池下流 | 白井市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 21 | 神々廻・運動公園 | 白井市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 22 | 竹袋の里山 | 印西市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 23 | 結縁寺周辺 | 印西市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 24 | 草深の森 | 印西市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 25 | 阿夫利神社周辺 | 印西市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 26 | 亀成川流域 | 印西市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 27 | 師戸川流域 | 印西市・印旛村 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 28 | 竜腹寺周辺の里山 | 本埜村 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 29 | 神崎川流域 | 白井市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 30 | 二重川流域 | 白井市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 31 | 印西牧の野馬土手 | 印西市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 32 | 平塚分校と集落 | 白井市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 33 | 富ヶ沢香取の森 | 白井市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 34 | 小森城址 | 白井市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 35 | 小林牧場周辺谷津 | 印西市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |

| | | | | | | |
|----|-----------------|-----|---------------------------------|------|---------------------|---------------------|
| 36 | 平岡の森・鳥見神社 周辺 | 印西市 | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 37 | | | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 38 | | | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 39 | | | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 40 | | | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 41 | | | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 42 | | | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 43 | | | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 44 | | | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 45 | | | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 46 | | | 猛禽類の生息・ 稀少種の生息・ 水系の連続性・湧水 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 47 | | | | | | |
| 48 | | | | | | |
| 49 | | | | | | |
| 50 | | | | | | |
| 51 | | | | | | |
| 52 | | | | | | |

★守りたい北総の拠点リスト

北総里山クラブ 2007. 8.

| NO. | 場所 | 市町村 | | | | |
|-----|-----------|-----|--------------------------------|------|---------------------|---------------------|
| 1 | 神々廻の原 | 白井市 | 指標種の個体数 稀少種の生息 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 2 | 復・サギのコロニー | 白井市 | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 3 | 神崎川下郷谷の湧水 | 白井市 | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 4 | 七次調整池 | 白井市 | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 5 | 野口調整池下 | 白井市 | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 6 | 延命寺 | 白井市 | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 7 | 富塚鳥見神社 | 白井市 | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 8 | 滝田家住宅 | 白井市 | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 9 | 清戸・宗像神社 | 白井市 | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 10 | 浦幡公園と調整池 | 印西市 | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 11 | 中木戸諏訪神社 | 白井市 | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 12 | 印旛学舎付近 | 印旛村 | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 13 | 小林駅付近 | 印西市 | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 14 | | | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 15 | | | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 16 | | | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 17 | | | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |

| | | | | | |
|----|--|--------------------------------|------|---------------------|---------------------|
| 36 | | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 37 | | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 38 | | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 39 | | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 40 | | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 41 | | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 42 | | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 43 | | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 44 | | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 45 | | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 46 | | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | 企業庁用 地 開 発計画地 |
| 47 | | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | |
| 48 | | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | |
| 49 | | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | |
| 50 | | 指標種の個体数・ 稀少種の生息・ 生息地の連続性 | 排水流入 | 調査活動 観察会 保全活動 | |